

地球環境概論Ⅱ

経済構造と持続可能な開発

日時：平成19年10月7日（日） 13:00～15:00

講師：深井 慈子（南山大学総合政策学部教授）

概況



【持続可能な発展とは】

持続可能な発展とは何か、から講義が始まりました。持続可能な発展とは、自然の能力を損なうことなく経済的發展をすることであり、また、将来の世代のニーズを満たす能力を損なうことなく今日の世代のニーズを満たしうる發展であることを、世代間の公平と世代内の公平をキーワードに説明されました。また、経済の持続可能性について地球の有限性からも触れました。

それから、持続不可能にしている二つの問題群のうち、特に、貧困や格差問題の悪化へと講義が進みました。貧困や南北格差の現状（例えば、20%の富める人が80%の資源を独占している、収入の南北格差）について説明がありました。このような貧困・格差拡大問題は以下の3つの理由により問題であります。一つ目は世代間・世代内の公平性に反するという政治倫理的な理由。二つ目は不公正な秩序が現体制への怒り・挑戦を正当化しテロリスト団体拡大を促すという安全保障上の理由。そして三つ目は発展途上国が先進国と同様の發展をしたら地球の収容能力を超えてしまうという生物物理的限界。したがって、環境容量の再配分が人類が生存するための必要条件です。

しかし、われわれは貧困・格差拡大問題に対して効果的な対策をとれないでいました。この原因は、グローバル政治経済システムの特徴にあります。グローバル政治経済システムのもとでは、地球規模の問題に対する政策は外交交渉で決めるため、各国が国益を主張してしまうからです。

【持続可能な発展に向けて必要な政治経済改革】

持続可能な発展に向けて必要な経済改革には、(1)具体的な政策と実践を重視する「体制内改良論」、(2)現体制の構造変革を主張する「体制変革論」、(3)今の政治経済システムの中から根本的に変えることのできる「中間論」の3つがあげられました。以下、各々について幾つかの論を紹介されました。